

令和7年度発信「農林水産研究タイムリー情報」バックナンバー

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点

(合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
①農業研究部 (計26件)						
1893	農業研究部	【イチゴの炭そ病検定を実施しました】 (2025. 7. 13発信) 果菜類チームでは毎年、イチゴ「ベリーツ（大分6号）」の原種（ウイルスフリー苗）を全農おいたへ供給、専門事業者で増殖をした後に県下の産地に販売されています。ていまず。原種は病害に感染しないように隔離したハウスで栽培・増殖し、重大な病害である「炭そ病」への感染の有無を検定します。6月27日から158株の親株の検定を始めました。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.7.31
1892	農業研究部	【花木定植圃場にて土壌断面調査を実施しました】 (2025. 7. 12発信) 地域に適した有望花木類の産地づくりのため、竹田市の圃場において、振興局やJA等の関係部所の職員8名を対象に土壌断面調査の研修を行いました。 今回の研修を受けた職員を中心に、植栽予定地の土壌調査を行い、品目選定と栽培技術確立を進めていきます。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.7.31
1891	農業研究部	【トマトハウスに外気導入装置を設置しました】 (2025. 7. 12発信) 昨年に続き、夏期の高温などのハウス内環境を改善し、収量や品質向上を図るために場内のトマトハウスに外気導入装置を設置しました。 今年度は送風ファンで吸い込んだ外気を、植物群落内に配置したダクトでハウス内に導入し、群落内気温や植物体表面温度、炭酸ガス濃度などを測定し効果を確認します。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.7.31
1887	農業研究部	【遮光資材をビニールハウスに吹き付けました】 (2025. 7. 10発信) 6月下旬に定植した冬にらが高温により葉先枯れしたため、遮光資材をハウスに吹き付けました。炭酸カルシウムと展着剤が混合された資材であり、安価かつ省力的に遮光できました。晴天の日の8時から16時の平均気温を、隣接するハウスと比較したところ、4.6度低くなりました(遮光資材あり：36.5℃、遮光資材なし：41.1℃)。気候の変化に応じて、今後も様々な対策を検証していきます。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.7.31
1884	農業研究部	【イチゴの育苗開始】 (2025. 7. 3発信) R7年度試験に向けて、大分県オリジナルイチゴ「ベリーツ」の採苗・挿し苗を行いました。これから3か月かけて苗を育て、9月下旬から農業研究部のハウス（豊後大野市、標高151m）に定植します。年末から年明けの収量向上対策として苗の冷却やハウスの遮熱、炭酸ガス施用の試験を行い、早ければ11月下旬から収穫が始まります。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2025.7.31
1883	農業研究部	【ウイルスフリー苗の簡易増殖法の研修】 (2025. 7. 3発信) 農業研究部では、高糖度かんしょ「甘太くん」の苗を増殖し、JA全農おいたを通じて産地に供給しています。簡易増殖法は、培地の滅菌作業や無菌操作が不要で、作業効率化や時間短縮が可能なため、産地拡大に対応できる技術として実用化に期待がかかります。		農業研究部 スマート・バイオチーム	0974-28-2079	2025.7.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点

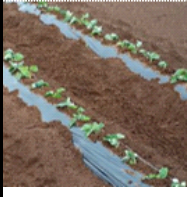
(合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1879	農業研究部	【研究功労者表彰を受賞しました】 (2025. 7. 1発信) 6月24日に日比谷コンベンションホール（東京都）で開催された全国農業関係試験研究場所長会において、病害虫対策チームの山崎専門研究員（チームリーダー）が令和7年度研究功労者表彰を受賞しました。今回、山崎TLの研究したピーマン軟腐病対策等の6つの研究成果「野菜類のウイルス病及び細菌病の防除技術の確立」が高く評価されました。		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.7.31
1876	農業研究部	【駅館川農地整備事業に関する土壤改良打ち合わせ】 (2025. 6. 26発信) 駅館川流域では農地整備を契機とした園芸産地づくりの計画が進められています。今回は、ぶどう園の造成に関して関係機関から14人が参加し、様々な協議を行いました。 土壤改良資材についてはパーク堆肥や牛ふん堆肥を使うこと、投入量は現地で配合量試験を行って決定することを確認しました。 なお、来年度の新規研究課題では土壤改良資材の種類や投入量が農作物の生育に与える影響などを調べる予定です。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.7.31
1875	農業研究部	【かんしょウイルスフリー苗の出荷が始まりました】 (2025. 6. 25発信) 農業研究部では、全農大分県本部から委託を受けて高糖度かんしょ「べにはるか」のウイルスフリー苗を増殖・供給しています。この苗の利用が品質の安定につながり、「甘太くん」のブランド化を支えています。今回は1回目の出荷で、8月までに計6000本の出荷を予定しています。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.7.31
1873	農業研究部	【ニラの定植を行いました】 (2025. 6. 19発信) 葉根菜類・茶業チームでは、冬ニラの安定生産に欠かせない株養成の指標（期間、茎数、茎径、葉幅）を作成するために試験を行っています。一般的には、4月に3粒播種し、7月に定植しますが、3月に2、3、4粒ずつ播種した苗を農業研究部のハウス（豊後大野市、標高151m）に定植し、定植時期や播種粒数の違いが生育や収量に及ぼす影響を調査しています。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.7.31
1870	農業研究部	【「新茶シーズン到来!県産茶を飲みましょう!」運動】 (2025. 6. 14発信) 6月11、12日の2日間、新茶の販売開始に併せ、センター来所者に「おいしいお茶の入れ方講座」を行いました。比較的低温（約70℃）で淹れることで、うま味の引き立ったお茶の試飲をしてもらいました。また、暑い時期の水分補給として、お茶の葉を使った冷茶の作り方も説明し、お茶の多様な楽しみ方を伝えることができました。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.6.30
1866	農業研究部	【普及能力強化研修で講演しました】 (2025. 6. 6発信) 6月2日にいるパークで地域農業振興課及び農業改良普及職員協議会主催の標記研修が開催され、普及指導員を中心に106名が参加しました。当チームから、ピーマン軟腐病の生態と防除について講演を行いました。講演後には、成果に結びつく試験設計についての質問や、猛暑対策と本病対策の両立を目指した交信攪乱剤の普及展示圃への支援要請がありました。引き続き、病害虫防除の情報共有や技術の向上に取り組んでいきます。		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点

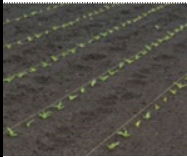
(合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1860	農業研究部	【野菜の専門技術研修（1年目）を実施しました】 (2025. 6. 4発信) 今年度新たに野菜の普及担当となった県職員とJA職員の12名を対象に、野菜1年目専門技術研修を実施しました。葉根菜類・茶業チームの圃場で、白ねぎの定植、かんしょの採苗・定植を行いました。作業中は小雨の降るあいにくの天気でしたが、実践的な技術を習得することができました。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.6.30
1857	農業研究部	【転炉スラグ施用圃場でかんしょの定植をしました】 (2025. 5. 28発信) 転炉スラグは長期間の土壌pH改良効果があり、キャベツなどのアブラナ科野菜で収穫量が増えることが確認されています。本試験では転炉スラグを施用した圃場で、輪作に使用可能な品目について検討しています。5月23日に農業研究部内圃場にてかんしょの定植を実施しました。今後、収量・品質や立ち枯れ症状の発生に注目していきます。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.6.30
1855	農業研究部	【堆肥を用いた白ねぎの栽培試験を開始】 (2025. 5. 26発信) 化学肥料の使用量を削減するために、堆肥を活用した白ねぎの栽培試験に取り組みます。5月15日に農業研究部の試験圃場（豊後大野市、標高151m）で定植を行いました。本試験では、堆肥の成分を分析し、供給される肥料成分を推測したうえで、施用する堆肥相当分の化学肥料を減らしました（75%減肥、56%減肥の2試験区）。今後は生育状況を調査し、堆肥活用の可能性を検証していきます。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.6.30
1854	農業研究部	【転炉スラグ施用によるメタン発生抑制効果の検証】 (2025. 5. 22発信) 水田で水を溜めると土中の酸素が不足し、その影響でメタンガスが発生します。水田からのメタン排出量は、排出量全体の約1割を占めるといわれています。鉄分を含む転炉スラグは、鉄分が酸化剤として働くため、メタンガスの発生が抑制されると考えられています。メタン排出抑制効果を調査するため、5月14日に豊後大野市の現地圃場で転炉スラグの施用を行いました。今後、当圃場から発生するメタンの量を調査し、その効果を明らかにしていきます。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.6.30
1853	農業研究部	【製茶作業の視察受け入れ】 (2025. 5. 17発信) 県内NP0法人より県産茶試験研究の視察申し込みがあり、一番茶の生育状況や製茶工場の見学、研究内容について紹介しました。広い茶畑で動く茶摘み機や新芽の伸びた姿、大型の製茶機械等の見学により、試験研究への理解促進や県産茶消費拡大を期待しています。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.6.30
1850	農業研究部	【転炉スラグの長期pH維持効果を活かしたニラの栽培調査】 (2025. 5. 14発信) 転炉スラグの長期的なpH維持効果を活かすことで、多年性作物であるニラの収量および品質の向上に効果が認められるかを検討しています。本試験では通常栽培区と転炉スラグ施用区における収量や生育状況を評価しており、4月30日に今年度1回目の収穫調査を実施しました。今後も調査を継続し、ニラの長期栽培と転炉スラグの適合性を明らかにしていきます。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点

(合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1849	農業研究部	【転炉スラグの施用によるもちとうきびの鉄分向上調査】 (2025. 5. 14発信) もちとうきびは子実に鉄分を多く含む栄養価の高い穀物として注目されています。本調査では約20%の鉄を含む転炉スラグを施用することで、子実中の鉄分を増加させることができないか検討しています。4月25日に播種を行い順調に発芽しました。今後、生育状況や収穫物の栄養成分を分析し、転炉スラグ施用の効果を明らかにしていきます。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2025.5.30
1848	農業研究部	【豊後大野ピーマン部会講習会開催】 (2025. 5. 10発信) 4月17日に豊後大野市大野公民館で標記講習会が開催され、生産者やJA、県職員など約40名が参加しました。病害虫対策チームよりアザミウマへの赤色防虫ネットの効果やピーマン斑点病への肥培管理試験について紹介しました。生産者からは、マニュアル化への要望もありました。今後も研修会等を通して情報共有や技術の向上に取り組んでいきます		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2025.5.30
1847	農業研究部	【新茶の収穫が始まりました】 (2025. 5. 10発信) 農業研究部の茶園（豊後大野市、標高約160m）で、5月1日から茶摘み、製茶を開始しました（昨年より1日遅れ）。今年は、3月以降がやや低温傾向であったため、比較的ゆっくりとした生育です。これから5月中旬にかけて茶摘みを行い、並行して茶葉の収量、品質分析などの調査を進めます。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30
1846	農業研究部	【かんしょ苗に炭酸ガスを施用しました】 (2025. 5. 10発信) 県内で高糖度かんしょの産地拡大が進む一方で、定植適期(5月)の短期間に苗を確保することが課題となっています。そこで、炭酸ガスを育苗ハウスのトンネル内に施用し、苗の光合成を活発にすることで、生育を促進することができないか調査しています。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30
1835	農業研究部	【かんしょの条溝を抑制する試験を開始しました】 (2025. 4. 17発信) 高糖度かんしょ「べにはるか」を早期（4月上・中旬）に定植すると、“条溝”と呼ばれる縦方向の溝が発生し、外観が良くないことが課題となっています。そこで、本試験では、“条溝”の発生要因及び抑制する技術(対策：優良苗、マルチやトンネル被覆など栽培技術改善)について検討します。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30
1834	農業研究部	【AIを用いて茶の萌芽期を予測しています】 (2025. 4. 16発信) 一番茶の摘採時期を判断するうえで、「萌芽期」を把握することは重要です。一方で、萌芽期の判断には個人差があること、茶園の面積が広大なことから、各園場の萌芽期の把握には多大な労力を要します。当チームでは、スマートフォンで撮影した茶の樹冠面の画像から新芽を検出し、萌芽・未萌芽の判定を行うAIを作成しました。これにより、画像から一定の基準で萌芽期を判断するため、茶の品質・収量の安定化につながります。		農業研究部 スマート・バイオチーム	0974-28-2079	2025.5.30
1833	農業研究部	【茶の萌芽調査をしています】 (2025. 4. 16発信) 茶の収穫適期の指標となる萌芽の調査をしています。農業研究部の標準的な茶園（豊後大野市、標高約160m：品種「やぶきた」）では、昨年よりも6日遅い4月11日に萌芽しました。気温の長期予報や平年値から推測すると、摘採日は昨年より3日遅い5月7日となりそうです。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点 (合計64件)

整理 番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1832	農業研究部	【白ねぎ（夏の宝山）の定植を行いました】 (2025. 4. 16発信) 近年、海外情勢により化学肥料の価格が高騰していることから、昨年度に引き続き、肥料コスト削減を目的とした試験に取り組みます。4月9日に農業研究部の試験圃場（豊後大野市、標高151m）で白ねぎ品種「夏の宝山」の定植を行いました。今後、肥料の違いによる白ネギの生育や収量に及ぼす影響について明らかにする予定です。		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点

(合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
②水田農業グループ (計7件)						
1886	水田農業グループ	【水稲作柄判定試験開始～今年の稲の育ち方をチェック～】 (2025. 7. 9発信) 6月20日、作柄判定試験ほ場に苗を移植しました。毎年同じ条件（播種日・移植日・苗の本数・施肥量）で稲を育て、天候が生育に与える影響を調べます。今年は茎数が平年より多い傾向にあります（7月4日調査）。今後も定期的に調査を予定しており、栽培管理の参考となる情報を引き続き発信していきます。詳しい調査結果は、当グループのホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.7.31
1871	水田農業グループ	【除草剤を検証中～除草効果と安全性を見極める～】 (2025. 6. 16発信) 6月6日に水稲除草剤適用性試験の移植を行いました。この試験は、水稲に使用する除草剤の効果や安全性、薬害等を確認するための試験です。また、さまざまな時期に薬剤を散布するため、畦波シートや杭を使って田んぼの中を区切り、試験区を設置しました。今後も水稲や雑草の生育を継続的に観察・記録し、生産者の皆さんが安心して使える除草剤の実用化に役立てていきます。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.7.31
1861	水田農業グループ	【環境にやさしい！新しい栽培方法の試験】 (2025. 6. 4発信) 田んぼでの環境負荷を減らすため、プラスチックを使わない「ペースト状の肥料」を使った新しい栽培方法の試験を始めました。5月28日には、宇佐市内の農家さんの協力のもと、試験田で田植え作業を行いました。これからは、水稲の収穫量、品質を調べ、これまでの肥料と比べてどのような違いがあるかを確認していきます。持続可能な農業を目指して、引き続き取り組んでいきます。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.6.30
1859	水田農業グループ	【優良種子を農家さんに届けるために～麦の「原種」収穫が始まりました～】 (2025. 6. 3発信) 来年以降の麦栽培に使われる、大切な「元の種（原種）」の収穫が始まりました。今年は、裸麦「ハルアカネ」、小麦「はるみずき」と「チクゴイズミ」の3品種を栽培しており、今回はそのうち「ハルアカネ」の収穫を行いました。この「原種」は、農家の皆さんが麦栽培に使う種子の“もと”となる、重要な種子です。今後も他の品種の収穫を順次進め、農家の方々に安定して優良な種子を届けられるよう努めていきます。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.5.30
1843	水田農業グループ	【農業大学の学生を迎え、麦の研修を行いました】 (2025. 5. 8発信) 4月30日、豊後大野市三重町にある県立農業大学校（農大）農学部 水田・露地野菜クラスの1・2年生18名を受け入れ、研修を実施しました。はじめに当グループの業務内容を紹介した後、農業機械の説明や麦の圃場観察を行い、麦の穂を使った品種当てクイズも実施しました。また、農大出身の職員が農機の案内を担当し、自身の体験を交えて農業のやりがいについて語りました。学生たちにとっては、現場を知り、今後の進路を考える貴重な機会となったようです。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点 (合計64件)

整理 番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1842	水田農業グループ	【大麦の新品種選定に向け実需と場内圃場で検討】 (2025. 4. 25発信) 当グループでは、水稻・麦(小麦・大麦)・大豆の新品種を選ぶための試験を実施しています。その一環で、4月22日に大麦の有望な品種について、実需者や国の試験場と検討会を行いました。認識を共有し今後の品種選定に向けた有意義な機会となりました。今後も地域に適した優良品種の選定と安定生産を目指していきます。		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.5.30
1838	水田農業グループ	【麦類が出穂期～穂揃い期を迎えました】 (2025. 4. 19発信) 麦類が出穂期～穂揃い期となり、開花期を迎えようとしています。天候が不安定ではありますが、これからの作業として2回の赤カビ病防除を徹底しましょう。 【散布時期の目安】 1回目:開花期 (大麦の場合は葯殻抽出期) 2回目:1回目の散布の一週間後		水田農業グループ 企画指導担当 又は 水田農業チーム	0978-37-1160	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点 (合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
③果樹グループ (計1件)						
1885	果樹グループ	【柑橘の栽培管理研修会が開催されました】 (2025. 7. 5発信) 令和7年6月27日に採用1, 2年目の果樹担当普及職員等を対象に、柑橘の基礎を学ぶ研修が行われました。午前中に座学、午後から重要な作業である「摘果」について実習しました。梅雨明け発表直後の暑い中でしたが、参加した職員はみんな真剣に取り組んでいました。今後も普及職員の成長を促せるよう技術研修を重ねていきます。		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2025.7.31

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点 (合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
④花きグループ (計2件)						
1868	花きグループ	【秋収穫作型のホオズキを定植しました。】 (2025. 6. 11発信) ホオズキには「お盆の花」というイメージが強くありますが、新たな需要の拡大を目指し、周年栽培の可能性について栽培試験を行っています。本年度は、ハロウィン需要を見込んだ9月収穫の作型試験に取り組んでおり、5月中旬から6月上旬にかけて定植を行いました。今後は生育状況などの調査を進めていく予定です。		農業研究部 花きグループ	0977-66-4706	2025.6.30
1841	花きグループ	【花きグループで育種中のスイートピーを佐伯市のスイートピー生産者が視察に訪れました】 (2025. 4. 24発信) 佐伯市のスイートピー生産者が、花きグループで育種中の新品種の視察に訪れ、種採りをしているハウスで、花の色や形、輪数を見ながら、研究員の説明を受けました。有望な品種については、今年度、現地で試作を行う予定です。		農業研究部 花きグループ	0977-66-4706	2025.5.30

令和7年度発信「農林水産研究タイムリー情報」バックナンバー

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点

(合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑤畜産研究部 (計6件)						
1882	畜産研究部	【若手普及指導員の研修を行いました】 (2025. 7. 2発信) 今年度採用された畜産普及指導員4名を対象に6月18日～20日の3日間、豚、鶏、酪農に関する研修を行いました。広域普及員や畜産研究部の職員が講師となり、基礎的な知識を学んだ後に実習を行いました。写真はおおいた冠地どりの種鶏について説明しているところです。研修を通じて学んだことを活かして、生産者の皆さんの役に立てるよう各地で普及活動に取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.7.31
1881	畜産研究部	【久住高原農業高等学校で削蹄を支援しました】 (2025. 7. 2発信) 大分県立久住高原農業高等学校は、R8年1月に開催される第9回和牛甲子園出場に向けて取り組みを行っています。和牛甲子園は全国の高校生が和牛飼育の取り組みを発表し枝肉成績を競う大会です。当研究部を含めた関係機関で飼養管理技術の支援を行っており、今回は牛の保定や削蹄を指導しました。大会で良い成績が出るよう今後も支援を行っていきます。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.7.31
1877	畜産研究部	【獣医インターンシップ研修を行いました】 (2025. 6. 27発信) 大分県職員（獣医師）の仕事に興味がある大学生を対象にインターンシップを実施し、研究部内を見学しながら業務内容について説明を行いました。毎年、獣医師及び畜産職に関するインターンシップの受入れを行っていますので、興味のある方は大分県ホームページからお申し込みください。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.7.31
1869	畜産研究部	【家畜保健衛生所新採用職員の研修（牛）が開催されました】 (2025. 6. 13発信) 令和7年6月4日に家畜保健衛生所に採用された職員等を対象に牛に関する繁殖技術研修が行われました。牛の保定や体測、肥育牛の採血、直腸検査による妊娠・発情鑑定など実践的な技術を習得しました。今回の研修で学んだことを活かして、生産者の皆様の役に立てるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.6.30
1852	畜産研究部	【久住高原農業高等学校で和牛甲子園出場に向けた技術支援を行いました】 (2025. 5. 16発信) 大分県立久住高原農業高等学校は、R7年1月に開催された第8回和牛甲子園に初めて出場しました。和牛甲子園は全国の高校生が和牛飼育の取り組みを発表し枝肉成績を競う大会です。現在、第9回への出場に向け当研究部を含めた関係機関で飼養管理技術支援をしており、今回は振興局等と共に肥育の基礎知識に関する指導を行いました。今後も大会出場に向けて支援を行っていきます。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.6.30
1839	畜産研究部	【就農準備研修（畜産コース）開講式が行われました】 (2025. 4. 23発信) 令和7年度就農準備研修開講式が行われました。今年度は2名が受講し、4月～3月までの11カ月間、畜産研究部及び農業大学校で畜産の知識や技術を学ぶとともに、家畜人工授精師等の免許取得を行います。就農を目指して頑張りますので応援をお願いします。		畜産研究部 企画指導担当	0974-76-1214	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点

(合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑥林業研究部 (計6件)						
1864	林業研究部	【九州地区林業試験研究機関協議会木材加工部会の開催】 (2025. 6. 5発信) 5月27日から28日にかけて、九州地区内の木材関係公設試が一堂に会し、木材加工部会担当者会議を開催しました。 大分県が取り組むスギ大径材の利活用に関する課題をはじめとして、各県が抱える木材加工に関する課題についての情報共有や意見交換などが活発に行われました。 会議後、当研究部の施設見学を行うとともに、今後も連携促進に努めることとしました。	 会議の様子	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.6.30
1863	林業研究部	【抵抗性クロマツの剪定】 (2025. 6. 5発信) 当部では抵抗性クロマツの採穂園と採種園を整備し管理しており、先日採穂園の剪定を行いました。クロマツは、主に海岸防災林造成のため植栽されています。	 剪定の様子	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.6.30
1862	林業研究部	【研究用冷蔵庫の新設】 (2025. 6. 5発信) 当部では今年度から「スギ苗木生産における通年作業の確保に関する研究」として、夏場にも苗木生産作業を行うことで、苗木生産自給率を向上するための取り組みを進めています。 春先に採穂した穂木を冷蔵保存し、さし付け等苗木生産を可能とする期間を夏場にまで延長するため、新たに保管用冷蔵庫を導入しました。 この成果は随時、苗木生産業者等へ普及する予定です。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.6.30
1845	林業研究部	【県産スギ大径材の利活用】 (2025. 5. 9発信) スギの高齢級・大径化が進み、今後の利活用が問題となっています。そこで、当部では令和6年度から、このスギ大径材の2×4材等への利活用に向け、曲げ強度や引張強度当の試験を行い、いつでも木造建築へ使用できるよう、データの集積を進めています。 現在は、今秋に国の試験研究機関において実施する引張試験用の試験体を準備しているところです。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.5.30
1844	林業研究部	【早生樹コウヨウザンの実大強度試験】 (2025. 5. 9発信) 当県では令和3年度に「コウヨウザン」が造林補助対象樹種となりましたが、造林が進んでいないのが現状です。 今回、コウヨウザンが建築用材として使用できることを確認すべく、佐伯市直川の国有林で伐採された丸太を製材し、実大サイズの製材品で強度試験を行うこととしました。 現在、本来の担当である森林チームと強度試験を担当する木材チームが連携して製材作業にあたっています。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.5.30
1830	林業研究部	【無花粉スギの選抜】 (2025. 3. 21発信) 今や国民病と呼ばれる「花粉症」。林業研究部では、その中でもスギの花粉症対策の研究を進めています。 スギの中で無花粉遺伝子を持つ品種を選び出し、その花粉を成長の良い品種などに受粉させることで、新たに花粉がほとんど出ない上に、成長の良いスギの選抜を行っています。 現在、県では成長が良く花粉が少ないとされるスギ8品種を造林推奨品種として選定し、今後の森林づくりに取り組んでいます。		林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2025.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点 (合計64件)

整理 番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑦きのこグループ (計3件)						
1880	きのこグループ	【原木シイタケの活着調査を行いました】 (2025. 7. 2発信) 令和7年春に植菌した試験用のほだ木から種コマを抜き取り、シイタケ菌がほだ木に活着しているかどうかを調査しました。4月の少雨による活着不良が心配されましたが、活着状態は概ね良好でした（左下写真：種駒の先が白く発菌している）。 調査データは、ほだ木材表面の伸長状況調査（8月）の結果と併せて、研修会等で活用する予定です。		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.7.31
1874	きのこグループ	【乾しいたけの食味試験を行いました】 (2025. 6. 24発信) きのこGが開発した新品種9-46（仮称）の食味試験を行いました。市販の3品種と食べ比べを行い「旨味」「香り」「歯ごたえ」など、6項目について評価してもらいました。 今後は更に多くの人に評価して頂き、そのデータを集計・分析し、どのような特徴があるかを消費者に分かりやすく提供することとしています。		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.7.31
1872	きのこグループ	【乾しいたけの選別作業～出荷準備～】 (2025. 6. 18発信) 6月6日に場内で発生した乾しいたけの選別作業を行いました。 選別は、まず選別機（写真）で大きさ別に5種類に分別し、その後は一枚ずつ手作業で厚いもの（厚肉系）、薄いもの（薄葉系）、大きく開いたもの（バレ葉）の3種類に分別します。今春は平年並みの作柄ですが、気温上昇後の3月中下旬に集中的に発生したため、全体的に小ぶりで薄葉系やバレ葉が多い傾向です。今後は発生データ等を分析し研修会等に活用します。		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2025.7.31

農林水産研究タイムリー情報

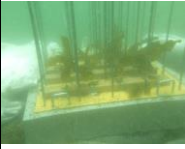
2025年8月13日時点 (合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑧水産研究部 (計2件)						
1851	水産研究部	【アユの遡上状況を調査中！2】 (2025. 5. 15発信) 当研究部では、アユの資源状況を把握するため、番匠川を遡上するアユの調査を毎年継続的に行っており、遡上時期や個体のサイズなどを記録しています。 5月9日の調査では、今年度新たに採用された研究員も参加し、投網技術や調査手法の指導を行いました。こうした技術の継承を図るとともに、今後も継続して調査を進めてまいります。今年度の調査は5月末まで行う予定です。		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2025.5.30
1831	水産研究部	【アユの遡上状況を調査中！】 (2025. 4. 15発信) 当研究部では、アユの資源状況を把握するため、番匠川を遡上するアユの調査を毎年継続的に行っており、遡上時期や個体のサイズなどを記録しています。 今年の調査は2月14日から開始し、早速初日に遡上を確認しました。また、3月6日には108. 52mmの大型個体が観察されました。		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点

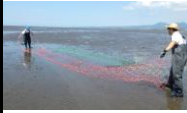
(合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑨北部水産グループ (計11件)						
1890	北部水産グループ	【標識付きクルマエビを放流しました！】 (2025. 7. 11発信) 5月下旬と6月中旬に、宇佐市の伊呂波川河口にある干潟で、約4万尾のクルマエビを放流しました。このクルマエビたちには、目の付け根に赤・黄・白・緑・青の5色のシリコン製の目印がついています。もし、これらの色付きクルマエビを見つけた方は、ぜひご連絡ください！ 1尾あたり2,000円で買い取りを行っています。 みなさまのご協力をお待ちしております！		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2025.7.31
1889	北部水産グループ	【放流したキジハタが再捕されました】 (2025. 7. 11発信) 数年前に姫島で右側の腹ビレ（お腹のひれ）を切り取って放流したキジハタが、今年6月に大きくなって捕獲されました。 このような放流は、大きく育った魚が漁獲されるという「直接的な効果」だけでなく、その魚が自然の中で子どもを産むことによる「間接的な効果」も期待されています。		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2025.7.31
1888	北部水産グループ	【アユの分布を調べたい】 (2025. 7. 11発信) 環境DNA調査と呼ばれる手法があります。川や池などの水を分析することで、そこに特定の生物がいるかどうか分かるというものです。 まだ新しい手法なので、これから精度を高めていく必要がありますが、まずは大野川でアユを対象に調査してみました。 大野川漁業協同組合や分析技術を持つ県衛生環境研究センターと連携して川の水を採水し、目視観察などを行いました。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.7.31
1878	北部水産グループ	【テングサ類（マクサ）の人工採苗にチャレンジ】 (2025. 6. 30発信) 寒天などの原料となるテングサ類（マクサなど）は、藻場の構成種としても重要です。そのためテングサ類を増やそうとさまざまな研究に取り組んでいます。その一環としてマクサが成熟するこの時期に人工採苗に取り組みました。母藻から胞子を採取してシャーレの中で育てます。顕微鏡サイズの胞子ですが、うまく育つよう管理をしています。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.7.31
1867	北部水産グループ	【ヒジキの種苗生産がはじまりました】 (2025. 6. 10発信) 今年もヒジキが成熟する時期となったので、種苗生産をはじめました。 母藻の成熟状態を見極めながら採卵作業を行います。 受精卵はコンクリートブロックなどに付着させて育てます。 この時期、担当者は大忙しですが、ブロックのうえで成長するヒジキがいずれ海中で大きく育つことを期待して作業を進めています。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.6.30
1865	北部水産グループ	【海藻を魚の食害から守るために】 (2025. 6. 5発信) 海洋環境の変化に伴い、活発化した藻食性魚類が多数来遊し、これまで以上に海藻を食べるといわれています。 そのため魚に食べられにくくした剣山型の藻場魚礁を東部振興局が日出町の協力を得て試作しましたので、連携して調査を始めました。 当グループから提供したカジメと一緒に海中に沈め、水中カメラも活用して、今後の経過を観察します。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点

(合計64件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1858	北部水産グループ	【今年もおゴノリの天然採苗に取り組みます】 (2025. 6. 2発信) 寒天などの原料となるオゴノリの養殖実用化に向けて、今年もおゴノリが成熟するこの時期に宇佐市地先の干潟に採苗用のノリ網を設置しました。 成熟したオゴノリから放出された胞子がノリ網に付着するのを待ちます。昨年よりさらに沖合にも設置し、採苗に適した場所などを探る予定です。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30
1856	北部水産グループ	【赤潮・貝毒プランクトン調査 実施中！】 (2025. 5. 27発信) 今年度も毎月2～3回、本県瀬戸内海域において赤潮や貝毒の原因となる植物プランクトンの出現状況をモニタリングしています（赤潮16定点、うち5定点で貝毒調査も実施）。 併せて水温や塩分、溶存酸素量などの環境項目も調査しており、これらの調査結果はホームページ等を通じて公表しています。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30
1840	北部水産グループ	【アユの標識放流を行いました】 (2025. 4. 24発信) 大野川では海から天然アユが盛んに遡上しています。どのくらいの数のアユが遡上しているかは、とても気になるところですが、それを知るのなかなか大変です。そこで捕まえたアユに標識をつけて放流し、標識アユが再び捕れれば、ある程度の推測ができるため、漁業者の協力を得て標識放流を試みました。今後の再捕が期待されます。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30
1837	北部水産グループ	【オゴノリ養殖試験の経過観察】 (2025. 4. 18発信) 寒天の原料となるオゴノリ類の養殖技術を確立するため、昨年6月に宇佐地先の干潟に網を設置し、天然採苗を試みました。その後、約10か月が経過しましたが、一部の網ではオゴノリの繁茂がみられました。まだ解明すべき課題は多いものの、可能性を秘めていることが分かりました。試験に協力いただいている藻類養殖漁業者も興味深そうに見ていました。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30
1836	北部水産グループ	【水温などの調査結果を公表しています】 (2025. 4. 18発信) 水温や塩分などの海洋環境のデータは、長期間の変化の様子を把握したり、水産資源の動向などを検討するうえでも重要です。当グループでは毎月、船舶を使用して調査を行っており、調査結果はパソコンを使って天気図のように分かりやすく図示して公表していますので、よろしければご覧になってください。		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2025.5.30

農林水産研究タイムリー情報

2025年8月13日時点 (合計64件)

整理 番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
----------	-----	------	-------	------	------	------

⑩農林水産研究指導センター (計0件)

	農林水産研究指導センター					
--	--------------	--	--	--	--	--